朴 真完（ぱく ちなん）

外国語学部 教授
博士（文学）／京都大学

ホームページ URL
なし

主な研究業績

- 「"-ji anoel su eops-" の意味分析および教育方案」「韓国語教育」第 30 巻 4 号、2019 年 11 月、頁 101-127
- 「東京外大本『交隣須知』（1881）の校訂から見た 19 世紀末から 20 世紀初までの韓国語敬語法体系」『韓国語学』 第 82 巻、2019 年 2 月、頁 31-72
- 「口語に現れる 'ilil-i ／いちいち' と 'hana-hana ／ひとつひとつ' の意味韻律についての考察」『韓国語学』第 74 巻、2017 年2月、頁 161-189
- 「草梁館語学所『復文録』の成立過程 − 復文教育における原文確保の方法と関連して」『韓国語学』第 72 巻、2016 年8月、頁 85-119
- 「草梁館語学所の朝鮮語教育方式の研究 − 『復文録』の分析を通じて」『韓国語教育』第 27 巻、2015 年6月、頁 1-27
- 「苗代川本『対談秘密手鑑』の研究 − 薩摩藩朝鮮通事の言語学習をめぐって」『国語国文』 第 84 巻 5 号、2015 年 5 月、頁 1-29
- 「『三学訳語』の日本語に関する考察 − 引用書との関係を中心に」『京都産業大学日本文化研究所紀要』 第 19 号、2014 年 3月、頁 508-535
- 「『朝鮮資料』による中・近世語の再現」臨川書店、2013 年2月、頁 1-431

キーワード　外国語教育、対照言語学、コーパス

研究テーマ Research theme

対照言語学を通じた外国語学習モデル

概　要 Overview

本研究の主要課題は、より効率的な外国語学習モデルを開発することです。具体的には、東アジア諸言語を中心とした第二言語の習得に関する研究です。日本語と韓国語、さらに中国語の三つの言語の対照言語学的研究に基づいた、日本語を学習する東アジア人のためのモデル化や言語教育システムの構築を試みます。今まで対照分析の対象となったのは、文法・語彙等の純粋言語学の領域に止まっています。しかし、これからは語用論的な観点からの対照研究、すなわちコミュニケーション上のメッセージの獲得・運用・喪失における対照も重要になってきます。特に日本・中国・韓国の話者は、コミュニケーションの中に、漢字という共通的な表記手段を持っているものの、個別漢字に対するイメージには相違があります。例えば、漢字「摘」のイメージは、中国では中立的、日本・韓国では否定的であり、『果」は中国では中立的、日本・韓国では肯定的です。そこで第二言語の学習の時には、その違いによる誤謬が体系的に発生する場合が多いです。つまり、それらの例を類型化し、体系的に指導することによって、誤謬を防ぐことができます。東アジア諸語、中でも日本語と韓国語は、文法が酷似しており、語彙体系は漢語からの影響が強いため、両言語における中間言語（intermediate language）の発生という観点から日韓語の共通文法・共通語彙モデルの作成に有利です。

応用分野 Application areas

関連研究としては、東アジアの言語における認知プロセスが外国語習得にどのように影響しているかという問題があります。特に、語順の違いなど文構造の相違が意味の還元に及ぼす影響、言語学習システムがどこまで発展できるかという認知処理の具現問題もあります。これらの問題は、将来、機械への応用も可能となる興味深いテーマであると考えています。

共同研究等へのニーズ Need for joint research

対照分析の方法論として、最近は膨大な対訳コーパスデータ（translated corpus data）が作成されており、コンピュータによる大量処理が可能となっています。例えば、高麗大学構築の「韓日並列コーパス」（Korean Japanese corpus）が制作されており、対照研究の上では、大きな影響力を持つでしょう。日韓語コーパスの対照分析を行う際に使えるツールとして、用例検索ソフトや「ハングル資料処理機」などの開発が必要であり、これらのソフト開発に関する共同研究を希望しています。